

令和5年度

山城中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

主体的に学習する態度の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
大岡 麻世	校長 大畑 知 教頭 岡村 美紀 教務 藤本 敦士 3年主任 山本 真之 2年主任 大岡 麻世 1年主任 井上 陽子 国語担当 西岡 ひとみ 数学担当 藤本 敦士

校長

大畑 知

【各校の取組状況の把握について】

企画委員会や学力向上推進委員会において随時取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いたある授業態度で、毎日の課題にも真面目な取り組みが見られる。 ●学習に苦手意識のある生徒や、基礎・基本の定着が不十分な生徒がいる。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ・新たに身に付けた知識や技能を、既習事項と結びつけ、他の学習場面にも活用することができる。	・授業の最初に学習目標を明示し、授業の最後には振り返りの時間を設定することで、本時の学習内容を明確にする。 ・タブレット等を活用して、ドリル学習や小テストを行い、学習内容の定着を図る。 ・朝の読書の時間の充実や、図書室の利用を推奨する。	・現在の取組みにより一定の成果が見られるが、それぞれの教科における知識等の習得をより徹底させる。	・授業での学習目標の明示や振り返りの時間を確保し、生徒の振り返りやアンケートを次時の指導に生かすことができた。 ・タブレット等でドリル学習を行い、既習事項を復習する機会を設けたが、学習内容の定着には課題が残る。 ・図書館サポーターや読み聞かせボランティアの配置により、読書習慣を身に付けることができた。	・朝の学習の時間を有効に使い、基礎的・基本的な学力の向上に努める。確認テストの実施等を検討する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話し合い活動に意欲的に取り組める生徒が多い。 ●自分の考えを、根拠を示しながら筋道立てて説明することが苦手な生徒が多い。	・学習した内容や用語などを用いて、自分の考えを表現することができる。 ・授業の課題などに対して、話し合い活動を通して解決する方法を考えることができる。	・学習活動の中で、自分の気持ちや考えを伝え合う場面を積極的に設ける。 ・デジタル教科書やタブレットを効果的に用いて、思考整理や意見発表に活用する。	・「国語力向上タスクフォースの提案から」を生かした授業実践を参考に授業改善を行う。	・根拠や理由を示して自分の考えを述べることに課題がある。 ・タブレットを効果的に使って、理由や考え方を言葉や図・絵などを示しながら話し合い活動をすることができた。	・自分の思いや考えを深めるために他者の意見を取り入れる場面を増やす。 ・全国学力学習状況調査や徳島県学力ステップアップテストの分析結果を全教職員で共有し、手立てを考える。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中、積極的に発表する生徒が多い。 ●家庭学習の習慣が身に付いていない生徒や、学習時間が十分に確保できていない生徒がいる。	・積極的に自分の気持ちや考えを述べたり、ペア学習やグループ学習において活発に意見交換したりすることができる。 ・自分に合った学習目標を立て、課題や自主学習に根気よく取り組むことができる。	・授業では、学び合いや教え合いの場面を積極的に取り入れる。また発展的に調べることができるような課題を提示する。 ・自分自身の家庭学習について振り返る機会を設定する。	・ICT機器を効果的に利用しながら、学習への興味関心を高める。	・ペア学習やグループ学習において、学年を越えて積極的に自分の気持ちや考えを伝え合うことができた。 ・期限を守って課題を提出できなかったり、家庭学習の時間が確保できなかったりする生徒に、家庭学習への取り組みを振り返る機会を設けることがあまりできなかった。	・家庭学習に取り組むために必要な、基礎的な学習内容の習得が授業内でできるよう授業改善を行う。 ・メディアの使用時間が長い生徒に、家庭での生活を振り返らせ、学習時間の確保に努めさせる。

令和5年度 学力向上ロードマップ

